

# 世代間交流の取組み

- みんなで子育て -  
鎧を脱いで -



茨城支部（茨城キリスト教大学）

中島美那子



# 1. 「YOROIを脱いで」、「KABUTOを脱いで」 の取り組み

世代間理解を目的とするライフストーリー講座

20～70歳代それぞれの世代の方々4名が登壇し、ジェンダーの視点から人生について語る

登壇者の女性版と男性版をそれぞれ行う

---

1) 2022年1月22日

「女たちはYOROIを脱いだか ーホンネの座談会ー」

---

2) 2022年9月17日

「男たちはKABUTOを脱いだか ーホンネの座談会ー」

---

3) 2022年11月13日

「女たちはYOROIを脱いだか ーホンネの座談会Part2ー」

---

2021年度

「水戸市男女平等参画基本条例」施行20周年記念事業 男女平等参画推進月間市民企画講座

大学女性協会茨城支部みと “ホソネの座談会と意見交換”

# 女たちは“YOROI”を脱いだか

## ～ホソネの座談会～

20代、30・40代、50・60代、70代の各世代の女性によるホソネトークとフロアとの意見交換

ファシリテーター **なかじま 美那子**  
茨城支部副支部長  
茨城キリスト教大学教授



「男女共同参画社会の実現」と男女共同参画社会基本法が1999年(平成11年)6月に施行されました。この座談会では、20代、30・40代、50・60代、70代の4人の女性から、それぞれが育ってきた時代の中の男女平等の有様や違和感などの体験を、暮らしの視点からホソネで話を聞いていただき、男女平等参画の実現度や市民への浸透度について理解を深めたいと思います。

そこから、ジェンダーギャップ解消が日々の暮らしにもたらすものは何か、男女平等参画社会の実現のために私たちにできることは何かを、参加者と意見交換をしながら未来へ向けた行動を探ります。男女平等参画一人ひとりが自分らしさを大事にできる、多様な性を受け入れる社会実現のために。

2021年 **9月19日(日)** 13:30~15:30

みと文化交流プラザ 501・502 研修室

◆参加費 無料 : 定員 30名 (定員になり次第締切)

◆参加申込・問合せ先: 水戸市男女平等参画課 (☎029-226-3161)

主催: (一社) 大学女性協会 茨城支部みと

共催: 水戸市男女平等参画課

※本事業は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止又は延期となることがあります。

1月に延期

2022年度

水戸市男女平等参画推進月間市民企画講座 大学女性協会茨城支部みと

# 男たちは“KABUTO”を脱いだか?

## ～ホソネの座談会～



「ジェンダー平等」に注目が集まる昨今、「男はこうあるべき」という兜を置いた男性たちは、どのような日々を送り、どのような未来を描いているのでしょうか? 30代、40代、50代そして70代の男性たちに本音で語っていただきます。

登壇者:

長谷川幸介(茨城県生涯学習・社会教育研究会 会長)

木村隆弘(キムテック代表・絵本ライブ Smile bank代表)

小泉正人(雑貨屋サニーサンディ 店主・鯨ヶ丘商店街 副会長)

直井雄一郎(子育て探検家)

進行役: 中島美那子(茨城キリスト教大学教授)

入場無料

日にち 令和4年9月17日(土)

時間 13:30~15:30

会場 みと文化交流プラザ501・502 研修室  
(水戸市五軒町1-2-12)

定員 30名(定員になり次第締め切り)

申込方法 裏面参照

ご予約・お問い合わせ: 水戸市男女平等参画課  
TEL029-226-3161

主催: (一社) 大学女性協会茨城支部 みと

共催: 水戸市男女平等参画課

2022年度

# 女たちは“YOROI”を脱いだか

## ～ホソネの座談会PART2～



私たちが自分らしく生きるために、今必要なことは何でしょう。70代、60代、40代、30代の登壇者女性のホソネのトークからその答えが見つかるかもしれません。



登壇者: 城倉純子さん・飯田久子さん・飯塚裕美さん・高橋美紀さん (進行役: 中島美那子さん)

日時: 2022年11月13日(日) 13:30~15:30

会場: セキショウ・ウェルビーイング福祉会館 小会議室A

水戸市千波町1918 (旧 茨城県総合福祉会館)

申込・問合せ: 【eメール】 qaqy8qg9k@diary.ocn.ne.jp

【QRコード】 右下QRコードから申し込みます。

主催: (一社) 大学女性協会茨城支部  
共催: (NPO法人) ひと・まちなっとわーく



### 3 講座から共通して得られたメッセージ



- 人生は自分の選択で全てが決定づけられるわけではなく、時代の影響を大きく受けるものだ。
- 世代間は自ずと分断するものではなく、みながその時代の中でより良い人生を生きようとしているため、それがさも世代間で生き方・考え方が異なるように見えてしまう。
- 少し考え方を变える（他者の生き方から刺激を受ける）だけで、人生は変わる。
- 世代間の交流・理解は決して困難ではない。

## 2. 「みんなで子育て」の取り組み

1回2時間の連続講座

対面での実施およびオンラインでの実施を合計3施行、実施

参加者は最大13名、最少7名であった。20代の大学生から、子育て世代、孫育て世代まで多世代交流型とした

1) 2020年12月19日～ 全3回（オンライン）

参加者：会員9名、一般0名

2) 2021年8月10日～ 全4回（オンライン）

参加者：会員6名（県外会員1名含む）、一般1名

3) 2023年1月7日～ 全4回（対面）

参加者：会員6名、一般7名

# 各回のテーマ

1回から3回は予めテーマを設定し、一般向けのわかりやすい資料を用意する。

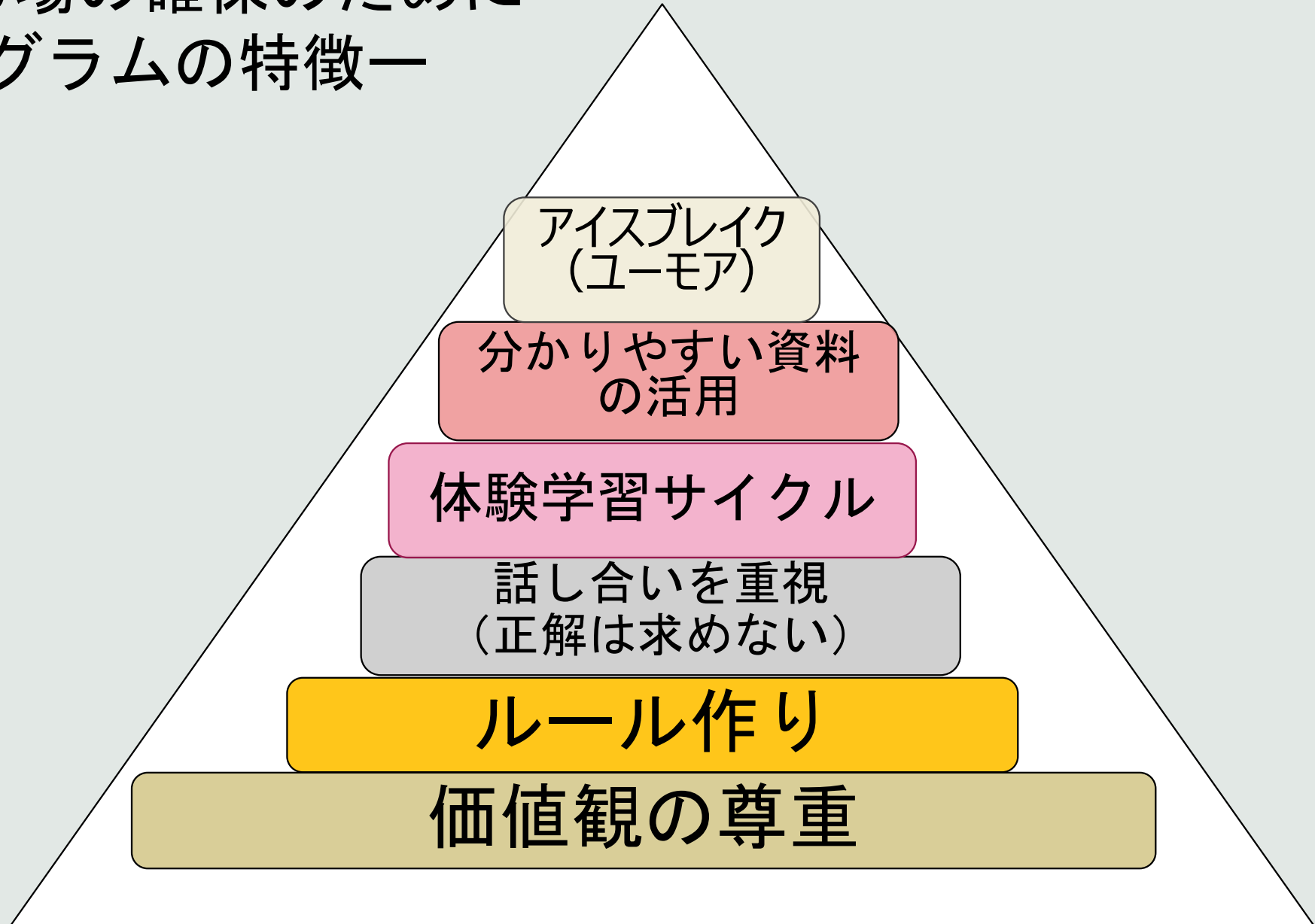
第1回	ルール決め、現代の子育て事情	NPが主
第2回	発達の凸凹とは	
第3回	より良い育ちとは	
第4回	参加者の悩み事から	RTAが主

NP : ノーバディーズ・パーフェクト

RTA : リフレクティング・チーム・アプローチ



# 安心できる場の確保のために —プログラムの特徴—





- ✓ 世代が違う者同士が「子育て」、「子どもの育ち」というテーマを共有し、「子育て家庭にとってより良い社会にするには」という目標に向かって話し合いを進めた。
- ✓ そこから互いの距離が縮まり、皆にとって安心できる場となっていた様子が見られた。
- ✓ 孫育て世代が子育て世代の困難感に理解を示し、子育て世代や大学生はシニア世代に親近感を覚えるという様子が見出された。

### 3. 今後の展望

---

- 提供している側である支部役員間の世代間交流・理解も深く進んでおり、今年度の試みも世代間交流を視野に入れたものとなっている。
- 今後は支部役員だけが機会の提供者となるのではなく、世代間交流・理解の場の提供者となる地域の人材を養成し、本取り組みを広く地域に浸透させていきたいと思っている。